



畑中喜右衛門慰霊祭

～ 9月7日～



由利本荘市吉沢にある畑中喜右衛門碑前にて、慰霊祭が行われました。畑中喜右衛門は、吉沢地区の治水の恩人として現在に語り継がれており、毎年9月7日の命日に慰霊祭が行われています。平成3年に畑中喜右衛門の碑の側に新たに建てられた碑には、以下のように記されています。



畑中喜右衛門碑

江戸時代明暦の頃（六五五年頃）吉沢部落の人家は、わずか一二戸にすぎなかつた。当時は洪水の度毎に川岸が侵食されて田地をせばめ、家屋敷等も危険にさらされてきた。

時の滝沢郷の地主、畑中喜右衛門（前郷）は、河川の改修を度々代官所に訴えた。

しかし代官奥山源兵衛は、これを強訴として憎んで捕らえ、農民煽動の罪をきせ、万治元年（六五八年）九月七日打ち首の刑に処した。処刑は、喜右衛門の希望により、川の見えるこの地「芋ヶ台」で行われた。

死に際して喜右衛門は、「我亡き後も、靈魂はここにどまり、必ず川の流れを変えるであらう」と予言したという。

その後豪雨襲来、濁流氾濫し、ごうごうと天地を裂くがごとき音がとどろき、ついに川の流れを変え、現在のようになつたと伝えられている。

それからは、吉沢の田地は広く美田となり今日の繁栄をみるようになった。
貞享三年（六八六年）吉沢部落民は喜右衛門の殉難の壮志を追慕し、この処刑の地に碑を建立し毎年命日には御霊を慰めている。

平成三年九月吉日



矢島小学校 社会科見学

～9月10日～



矢島小学校4年生の皆さんが、社会科「水害に備えるまちづくり」の学習の一環で、子吉川防災ステーションの見学に訪れました。当日は、施設の役割や災害対策車の働きなどについて学びました。児童の皆さんからは、「災害時以外にも防災ステーションを使うことはありますか」「訓練は行っているのでしょうか」など様々な質問がありました。対策本部車の車内見学や、照明車の照明を操作する体験なども行い、日常生活ではできない貴重な経験ができたのではないのでしょうか。



防災ステーションの説明の様子



↓対策本部車



↓照明車



対策本部車の見学



照明車の操作体験

◆インターネットで「雨量データ」や「水位データ」等を提供しています。
◇パソコンから→<https://www.river.go.jp/>
◇スマホなど→『川の防災情報』で検索



◎ご意見・問い合わせ先 → 子吉川出張所『せせらぎ通信』担当
住所：由利本荘市石脇字田尻29 電話：0184-22-6360
ホームページ： https://www.thr.mlit.go.jp/akita/branch_office/koyoshi/
または、「子吉川出張所」で検索